上田仮説サークルニュース　　１月例会	２０１７．０１号
編集責任　　遠藤　裕	発行2017.2.18
〒383-0041　中野市岩船426-3　ｻﾝｶﾞｰﾃﾞﾝ中野B-G　℡ 0269-23-2847　携帯 090-1406-9115
メール　endo-h@cronos.ocn.ne.jp　勤務先　長野工業高校　℡ 026-227-8555

１月２８(土)　上田市中央公民館　３Ｆ第１・第２会議室
午後 3:00 ～ 9:00

参加者数７名
資料総ページ 120 ペ

＜参加者＞　柳沢克央さん，増田伸夫さん，池田みち子さん，高見沢一男さん，
北村秀夫さん，北村知子さん，遠藤裕

はじめに　１月例会の参加者は７名。

レポートは，柳沢さんから６本，増田さんから４本の合計１０本の発表があり，ページ総数は１２０ページになりました。

柳沢さんは，読書メモで１７冊の本を紹介してくれました。３６ページにおよびます。上田市出身の関さんの本『赤松小三郎ともう一つの明治維新』の出版記事，教文通信の記事，米国の大学で使われている文献トップ 100，バカロレアの哲学試験で使われた哲学者，佐和隆光氏の関連資料の紹介，と非常にたくさんの発表をしてくれました。

増田さんの＜今月の本紹介１１＞は３２ページにおよぶもの。仮説の会員である秋田総一郎著『一気に分かる世界史』について設問形式で紹介してくれました。みんなで予想を立てながらじっくり読みました。この本と『ユダヤ人とは誰か』をもとに増田さんが作成された年図の紹介。長谷川幸洋氏の講演メモの発表。

もの作り講座では，高見沢さんが＜トルネード・ペットボトル＞の材料を準備してくれ，みんなで作りおおいにたのしみました。意外と簡単にできたのでビックリ。（材料の準備のおかげです。）水が竜巻となって落ちていくのを見ているととても面白いです。高見沢さんには準備をありがとうございました。

終了後，「大戸屋」で夕食会。（このところ大戸屋が定番になりました。）

１．発表資料

①　サークルニュース　１２月例会　遠藤　裕　（９ペ）

１．発表資料

①　サークルニュース　１１月例会　遠藤　裕　（８ペ）

②　読書メモ2016年　１１・１２月　　柳沢克央さん（４ペ）

ー茨木保著『ナイチンゲール伝ほかー

③　＜今月の本紹介１５＞　　増田伸夫さん（１２ペ）

［書評］旧約聖書の「律法主義」がユダヤ教を存続させた

④　近況報告　　渡辺規夫さん（４ペ）

⑤　物理実験の紹介　　渡辺規夫さん（20ペ）

⑥　プリント　コンデンサーの接続　　渡辺規夫さん（８ペ）

⑦　H28　信濃教育会総集会　池上　彰氏　講演会記録（７月２日）より　要約メモ

田中浩寿さん（４ペ）

２．体験講座　講師：渡辺規夫さん

〈ノーベル財団と〈〇〇〇基金〉〉　　宮地祐司　作

②　信毎記事の紹介：「赤松子三郎ともう一つの明治維新」刊行　柳沢克央さん（１ペ）

―関良基（よしき）拓殖大准教授が「赤松小三郎ともう一つの明治維新」刊行―

上田高校出身の関良基さんの出版した本の紹介記事。（信濃毎日新聞 2016.12.31）

上田市出身の関良基・拓殖大准教授（47）が，幕末にいち早く議会制を提唱した旧上田藩士の赤松小三郎（1831 ～ 67 年）を取り上げた「赤松小三郎ともう一つの明治維新」を，作品社（東京）から刊行した。歴史に埋もれた赤松の業績を再評価することで，近年の憲法改正論議にも新たな見方を提示している。

＊

赤松との〝出会い〟は上田高校時代にさかのぼる。通学路だった上田城址内で赤松の顕彰碑を見つけた。図書館で「上田市史」を読み，赤松が先進的な議会制度を提案していたことに驚いた。森林科学の研究者の道に進んでからも，赤松のことは頭から離れなかった。2008 年から調べ始め，13 年には上田高校関東同窓会の有志で「赤松小三郎研究会」をつくり，情報交換をしながら書きためてきた。

＊

後半では現代にまで射程を広げる。幕末から民主的な国家構想があったという事実は，「押し付け憲法論」を批判する根拠にもなるという。「天皇を神聖視する大日本帝国憲法こそ，『国民に押し付けられた』といえる。民主的な思想が江戸時代からあったからこそ，戦後，日本国憲法が受け入れられたのだと思う。

関良基著『赤松小三郎ともう一つの明治維新』
作品社　（四六判，211 ページ）1944 円

（関良基さんは，上田高校出身で渡辺さんの教え子。サークルでもたびたび話題に上ります。上田藩士で議会制民主主義を提唱していた赤松小三郎の「議会制提唱の業績　再評価」について書かれているそうです。憲法改正が議論されている今，日本国憲法についての理解を深めるための参考図書

の一つと言えそうです。　　ｴﾝﾄﾞｳ)

③　紹介：「シリーズ　わたしの実践・わたしの研究」　　柳沢克央さん　（２ペ）

ー学ぶことをやめたとき，教えることをやめなくてはならないー

長野県高等学校教育文化会議が発行している「教文通信　No. 235」に掲載された記事の紹介。

上田東高校の堀知幸先生のレポート。『iPhone アプリを用いた気柱共鳴等の音の実験』についての紹介ですが，教員の研修について大変参考になる文章が書かれています。以下に引用します。

レポートに関して書きなさいということでしたが，少し違う話をしたいと思います。私も，日々の校務や多くの雑務，教材研究に追われる身です。毎日，細かい字で手帳にどうでもいい反省を書き込んでいるわけではありません。一つの仕事に区切りをつけて次の仕事へ，なんてできないのが我々の仕事です。しかし，レポート発表をすることで，自分の取り扱った教材の一つは振り返ることができ，貴重な意見を頂き，生徒の興味と理解を引き出すことのできる教材へ進化させるチャンスをもらうことができます。支部教研，県教研で発表することで，教材の新たな可能性が広がっていきます。また，レポート発表だけでなく、日々の忙しさを理由に教材研究をしていないことを気がつかせてくれるのも教研集会のいいところです。他の先生のレポートを聞き，心に火をつけて実験書を開き授業の展開を考える，酒さえ飲んでいなければ教材研究もできるんです。さぁ，県教研に出て，レポート発表をして振り返る機会を作ったり，授業のヒントをもらったりして全国へ推薦されましょう！知らない間に全国への切符を手にすることができます。そして，これからは『レポート発表したいので週末の部活はお願いします』と言われて，そんな先生を笑顔で送り出し，青年レポーターの集いで飲んで来いよと餞別くらいスマートに渡せる先輩になりたいと思います。ならせてください。

＊

最後に，タイトルはある指導者の金言ですが，そこに教研集会の位置づけも込められているように思います。若い先生方，数年後に私の姿を見て学んでいないと思った時には，遠慮なく『介錯が必要ですか』と告げてください。その一言で，退職するほど潔くはないので，私と一緒に翌年の県教研でレポートを発表しましょう。もちろん，もう出さないでくれと言われるまでレポートも出せるように日々の教材研究に励んでいく所存です。

（このレポートは，支部教研や県教研でレポートを発表する意義について「なるほど」と思わせる内容が書かれています。「学ぶことをやめたとき，教えることをやめなくてはならない」という指導者の言葉は，教員に向けての言葉としてずしっときます。柳沢さんはこのレポートを「すばらしい!!」

と高く評価しています。　　ｴﾝﾄﾞｳ)

④　読書メモ2017年１月号　　柳沢克央さん（３６ぺ）

ー川崎 享（かわさきあつし） 著『英国の幻影』（創英社）ほかー

柳沢さんが読んだ本の紹介。

◇はじめに

昨年１２月までの「読書メモ」と同様，サークルで発表することを目的とすると，読書がはかどるので，今回もこのメモを作成しました。自身のため，記録を残すことが第一目的です。みなさま，よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり，引用あり，要約あり，感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

◇読書記録または読書メモ（順不同）

◎塩野米松（聞き書き）『**ネジと人工衛星―世界一の工場町を歩く―**』（**文春新書877**･2012年）(私物)

◎ちくま評伝シリーズ《ポルトレ》『**アルベルト･アインシュタイン―相対性理論を生み出した科学者―**』（筑摩書房･2014年）

◎藤井聡著『**イヌの気持ちは〔見た目〕で９割わかる！**』（だいわ文庫･2014年）

◎池上彰･佐藤優共著『**新･リーダー論―大格差時代のインテリジェンス―**』（文春新書1096･2016年10月！）（私物）

◎伊藤由佳理編著『**研究するって面白い！**』（岩波ジュニア新書･2016年）

◎毛利仁美著『**ファーストクラスに乗る人が大切にする51の習慣**』（プレジデント社･2016年）（私物）

◎美月あきこ著『**ファーストクラスに乗る人のシンプルな習慣（コミュニケーション編）**』（祥伝社･2011年）（私物）

◎バスティアン･オーバーマイヤー他著･姫田多佳子訳『**パナマ文書**』（KADOKAWA･2016年）

◎立川談慶著『**大事なことはすべて立川談志に教わった**』(KKベストセラーズ･2013年)（私物）

◎下島泰久著『**2017年版･間違いだらけのクルマ選び**』（草思社･2016年）（私物）

◎塩野米松･聞き書き『**刀に生きる―刀工･宮入小左衛門行平と現代の刀職たち―**』（**角川書店**･2016年）(私物)

◎齋藤孝著『**新しい学力**』（**岩波新書1628**･2016年）

◎齋藤孝著『**偉人たちのブレイクスルー勉強術**』（**文藝春秋**･2010年）

◎佐和隆光著『**経済学のすすめ―人文知と批判精神の復権―**』（**岩波新書1622**･2016年）

◎元永知宏著『期待はずれのドラフト１位』（岩波ジュニア新書･2016 年）
◎川崎亨著『英国の幻影』（第三企画出版･創英社･三省堂書店･2015 年）（私物）
◎津野海太郎著『読書と日本人』（岩波新書 1626･2016 年）

◇まとめ

昨年末・今年初めに何人もの方から「《読書メモ》はいい（面白い）から続けてみたら？」という趣旨の言葉で励ましていただきました。おかげで今回もこのメモを書くことができました。ありがとうございます。

この年未年始休業は昨年と違い，娘にこたつを占領されたので，楽しみにしていた「ごろ寝読書」はできなかった。仕方がないのでソファに深く座ってクッションに寄りかかって本を読んだ。

来月に要約や抜粋などを報告したい本がすでに数冊ある。10 冊以上あるかもしれない。先のことは分からないが，順調にいけば来月はさらに充実したメモが作れそうです。…と書いて自分を励ましてみたりする今日この頃です。2017 年 1 月 27 日（金）14：00 脱稿。

（柳沢さんの読書メモは毎回楽しみです。それにしても今回は１７冊。どのようにして読んでいるのか秘訣が知りたいものです。これは読んでみたいと思う本は結構あるのですが，なかなか読むまでに至っていません。　ｴﾝﾄﾞｳ）

⑤　紹介：西原史暁（にしはらふみあき）編　「米国の大学の授業でよく使われている文献 トップ100」

柳沢克央さん　（１２ぺ）

西原史暁氏のウェブサイト“Colorless Green Ideas”からの紹介。

＜概要＞

ウェブ上のシラバス情報をもとに米国の大学の授業でよく用いられている文献を 1 位から 100 位まで順に並べたリスト。文献の和訳の情報とその文献の簡単な解説を付す。

目次　はじめに　トップ 100 リスト　雑感　分野的偏り　地域的偏り

＊

このウェブサイトは，佐和隆光著『経済学のすすめ』（岩波新書 1622・2016 年・￥780＋税）201 ページに載っていた記述をたどって見つけた。佐和氏編の「リスト」を「読書メモ」に抜き書きして後のための参考にしようと思ったが，抜粋されすぎている気がしたので元を検索してみた。アドラー著『本を読む本』並の古典が並んでおり，壮観である。検索してみてよかった。

西原氏の仕事ぶりはとても興味深い。今後も注目していきたい。

2017 年 1 月 28 日（土），上田仮説サークル 1 月例会用資料として 15 部作成

（西原さんという方は「世の中のわけの分からないことをわかりやすい形で伝え直す」ことを主にや

っているそうです。考えてみれば，世の中のことが分からないから読書をしたりするわけですね。わからないことがすっきりと分かるような本に出会えると最高です。柳沢さんの読書メモはそのヒントになるレポートです。　　ｴﾝﾄﾞｳ)

⑥　紹介：　西原史暁(にしはらふみあき)「最近10年間のフランスのバカロレアの哲学試験で扱われた哲学者」
柳沢克央さん　（６ペ）

西原史暁氏のウェブサイト“Colorless Green Ideas”からの紹介。

＜概要＞

フランスのバカロレア（大学入学資格試験）の哲学テキストの解説を行う問題で，どのような哲学者・テキストが扱われたかについて，2007 年から 2016 年までの 10 年分を紹介。

目次　はじめに　凡例　人文系（littéraire；L）経済社会系（économique et sociaI；ES）理系（scientifique；S）解説

2017 年 1 月 28 日（土），上田仮説サークル 1 月例会用資料として 15 部作成

（リストには，デカルト，ニーチェ，ルソーパスカル，･･･などどこかで聞いたことのある哲学者の本の題名が多くあります。私(ｴﾝﾄﾞｳ)は，ほとんどまったくといっていいほど内容を知りません。フランスでは大学入学資格試験にこのような哲学分野が出題されるんですね。日本とはだいぶ違うようです。　　ｴﾝﾄﾞｳ)

⑦　佐和隆光(さわたかみつ)氏関連資料紹介　　柳沢克央さん　（１２ペ）

「滋賀大学ホームページ」からの紹介。

2017 年 1 月 28 日（土），上田仮説サークル 1 月例会用資料として 15 部作成

（読書メモとの関連での紹介ということです。　　ｴﾝﾄﾞｳ)

⑧　＜今月の本紹介１１＞　　**増田伸夫さん**（３２ペ）

要約：世界の中心は“となり・となり”へと移っていった

☆秋田総一郎著　『一気に分かる世界史』（日本実業出版）
（2016 年 9 月 10 日初版発行）定価：本体 1300 円（税別）

著者の秋田総一郎は，独立系投信会社などを経て，現在は若い人のための就職相談の仕事をしている。著書に『自分で考えるための勉強法』（ディスカバヴァー･トゥエンティワン，電子書籍），『健康と環境』（小峰書店，落合大海共著）など。

問題の予想を立てながら読む本の紹介。問題と質問が１１ずつありす。

この本で著者が言いたいことをヒトコトでまとめるなら，「世界史を使おうと思ったらまずはざっくりとした全体像をつかむことが大事だ。そのような世界史の大きな流れを理解するためには，＜世界の中心（中心的な大国）がどのように移り変わってきたのか＞という視点が不可欠だ。そうやって世界史を眺めたら，世界の中心は“となり・となり”へと移り変わっていた」ということになるだろうか。

さて，今回も設問形式で「世界史の通史」を中心に本書の紹介を試みたい。しばらくおつきあいください

◇世界最初の「世界の中心」は？
◇雨の少ないメソポタミア南部にも文明が広がったワケ
◇メソポタミア・エジプト・ペルシャの次は？
◇ギリシャの次は？
◇ローマに広まった<ギリシャ起源ではない文化>とは？
◇西ローマ帝国と東ローマ帝国（ビザンツ帝国）
◇ローマの次は？
◇スンナ派とシーア派
◇ウマイヤ朝→アッバース朝→カイロ（中心の移動）
◇イスラム絶頂期にそれと並んで繁栄した国･地域とは
◇騎馬遊牧民が築いた中国王朝とは？
◇モンゴル人以外で特に重要な騎馬遊牧民とは？
◇周辺的な地域での「文明」の広がり
◇イスラムの次は？
◇ギリシャ･ローマの遺産吸収による文化の発展･復活
◇イスラムからヨーロッパへの過渡期
◇イタリア･スペインの次は？
◇オランダの次は？
◇イギリスでの政治的争乱とは？
◇イギリス革命が大きな影響を与えた世界の出来事とは？
◇このときフランス軍を率いて戦った指揮官とは？
◇産業革命と「大英帝国」
◇イギリスの次は？
◇アメリカにおける「産業革命のバージョンアップ」
◇２つの世界大戦
◇第一次世界大戦の結果＝帝国の解体･滅亡
◇第二次世界大戦の結果＝アジア･アフリカの独立
◇冷戦の時代（資本主義の西側と社会主義の東側）
◇米ソの「代理戦争とは」？
◇「欧米以外の台頭」とソ連崩壊（「冷戦」の終結）　６．
◇アラブとイスラム主義
◇なぜ「となり・となり」で中心が移動するのか？
◇なぜ「従来の中心」は新興勢力に負けてしまうのか？
◇世界を動かす「１番手」と「２番手」の関係

さて，著者の秋田総一郎さんは楽ちん研究所から『フラッグス・る？』，小峰書店から『健康と環境』（落合大海共著）を出すなど，仮説実験授業に近い人のようである（仮説実験授業研究会会員でした）。本書の中でも「科学史家・教育学者の板倉聖宣さんに私は大きな影響を受けた」と書いているし，「板倉さんは，＜各時代の世界の文明の中心がどのように移動してきたか＞ということだけを見るようにすれば，世界史の流れも比較的簡単にたどることができるという考えを打ち出し，「授業書＜世界史入門＞の構想」を示している。さらに「となり・となり」という言葉も板倉さんの著書から知りました」と書いている。だから，センスの良さは当然のことなのです。

本書を読んでの新たな発見は，＜繁栄の中心は，じつは「となり・となり」へと移り変わっていた＞ということ。そしてそれは＜人は人から教わる＞ものだからということ。

さらに＜２番手による１番手への挑戦（戦争）の結果には法則性がある＞ということ。とても新鮮でした。著者の秋田さんには「早く授業書をつくってもらいたい」と思います。そして多くの子どもたちに世界史の楽しさを知ってほしいと思いました。良書です。ご一読を。　　（増田）

（仮説の会員の方が書かれた本なので，仮説関係の方には読みやすい本のようです。増田さんは著者の秋田さんに「早く授業書をつくってもらいたい」といっています。多くの高校生は世界史の授業に苦しめられている（？）のではないでしょうか。この苦しさから解放され，「世界史の楽しさ」が生徒さん感じられる授業書が必要ですね。　　ｴﾝﾄﾞｳ）

⑨　＜一気にわかる世界史＞年図（「繁栄の中心」の移り変わり）増田伸夫さん（１ペ）

『一気にわかる世界史』をもとに増田さんが作成した年図の紹介。

⑩　＜『ユダヤ人とは誰か』に登場する各国の宗教の変遷＞年図　　増田伸夫さん（１ペ）

『ユダヤ人とは誰か』をもとに増田さんが作成した年図の紹介。

⑪　講演：「日本の政治と経済の行方」　《講演メモ》　　増田伸夫さん（８ペ）

＜２０１７新春経済講演会＞（1/12(木)）での長谷川幸洋氏の講演メモ。

主催：信州中野商工会議所　協賛：信州中野法人会ほか

場所：アップルシティーなかの（入場無料）

長谷川　幸洋（ゆきひろ）　（東京新聞･中日新聞　論説副主幹）

（1953 年千葉県生まれ　慶応大学経済学部卒　77 年中日新聞社入社

東京本社（東京新聞）経済部　ｼﾞｮﾝｽﾞﾎﾌﾟｷﾝｽ大学高等国際問題研究大学院にて国際公共政策修士取得　ブリュッセル支局長などを経て論説委員に　読売テレビ「そこまで言って委員会ＮＰ」，フジテレビ「バイキング」，テレビ朝日「ビートたけしのＴＶタックル」等に出演

☆テレビでは１回に話せるのは 90 秒まで。それ以上話してもカットされる（韓国の金さんは同じことを５回くらい言っているが，全部カットされている（笑））。本日は＜この会場だけの「そこまで言って委員会」＞として，２時間半ひとりで思う存分話したい。

＜世界情勢とこれからの日本＞

★東アジア情勢から日本を語れ！
★＜中国（と北朝鮮）が日本を脅かしている！＞＝情勢分析
★中国以外の第三国と外交交渉をする！
★日ロ首脳会談は成功だった！？
★中国人民軍に自衛隊は勝てるか？
★ＴＰＰは米軍駐留の裏返しの問題
★トヨタに３８％の関税をかけられる？
★今年何が起きるか？→台湾危機（米中衝突）！！
★ヨーロッパは日本にとっては頼りにならない存在

＜経済＞

★鍵を握るのは企業の社長たち？

＜政治＞

★小池百合子にも期待していない

＜中国＞

★中国を信用してはいけない！
★中国は３０年以内に崩壊する！

＜質問＞

★今年，解散は？

無料の講演会，しかも歩いていける中野市内ということで，出かけました。無料ということもあってか，会場ははぼ満員でした。

「東京新聞」は中日新聞東京本社が発行する新聞だったんですね（知らなかった）。中日新聞のホームページによれば，中日新聞には「地域とそこに住む人々を守るために，いかなる権力にも屈しないという自由な社風」があるそうだが，…。

長谷川氏の講演は「そこまで言って委員会」のノリで，言いたい放題の感もあったが，情勢のポイントはついていると思った。特に台湾情勢は目が離せないのは確かだろう。

秋田総一郎『一気にわかる世界史』の中で，著者は「＜２番手が戦争というかたちで１番手に挑戦するたび，世界は大きな混乱や不幸に巻き込まれてきた＞こと，そして＜その場合，常に２番手は１番手に負けてきた＞ということを中国の人々は踏まえておいた方がよい」と述べていましたが，アメリカだって「戦争すれば疲弊する」のだから，日本はロシアを含め，世界中の国々と協力しあらゆる手段を使って，結果として米中衝突が起きないように外交をすることが大事だと思いました（牧衷日く「日本の安全はただただ＜世界の平和＞にかかっている」）。

なお，「そこまで言って委員会 NP」は日曜日の午後 1：30 ～やっているので，いつもフィットネットジムでウオーキングをしながら見ている。全体としては右寄りなのかもしれないが，議論はなかなかおもしろいと思って見ている。　（増田）

（この講演メモを読ませていただき，テレビに出演している有名人だからというわけではなく，世界情勢について学べる面白そうな講演会だったようです。「台湾情勢」については，これからニュースなどに注意していきたいと思います。　　ｴﾝﾄﾞｳ）

２．もの作り講座

〈ペットボトル・トルネード〉　　講師：高見沢一男さん

高見沢さんが材料をすべて用意してくれあり，簡単に組み立てることができました。水の入っている方のペットボトルを上にし，少し円をかくように揺らせる。すると見事な水の竜巻ができ，上の水は下のペットボトルへいきよいよく落ちていきます。各自でつくり，何回も試してみました。水が落ちていくのを見ているととても面白いです。

材料　500mlのペットボトル2本。それぞれの口のまわりに防水補修テープを巻く。
丸座金（穴の大きさの違うものを2枚重ねくっつけてあるもの）
プラチックのジョイント（プラスチックの長いパイプを切ったもの）
（材料のサイズなどが大切ですが，ここでは大ざっぱな紹介です。）

あとがき　２月に入りようやく寒さも峠を越したようです。昼間の太陽の日差しもがだんだんと力強くなってきているような気がします。北信に住んでいると，この時期太陽の光を浴びるとホッとし，すがすがし気持ちになります。

先月の例会で，高見沢さんが＜ペットボトル・トルネード＞の材料を用意してくれ，みんなで作りました。職場では，普段進路指導室にいるのですが，机の上に装置を置いておいたところ，若い先生がそれを目にしてしきりに試していました。さらに同室の他の２人の先生も興味を示し，「どうして振って竜巻を起こさないと水が下に落ちにくいのか」予想を立てていくつかの実験をしてみました。とてもたのしい一時でした。仮説実験授業は，意図的にこのような状況を授業で作り出せるようになっているということを改めて実感しました。　　（エンドウ）

★　今後の予定　★
３月１８日（土）
４月２２日（土）
５月２７日（土）